

三陸やまだ地域漁業復興プロジェクト

岩手県山田町

事業実施者：三陸やまだ漁業協同組合

使用船舶名：第二姉吉丸(19トン)、第一姉吉丸(19トン)、
第三姉吉丸(17トン)、第一協漁丸(19トン)、
第二十二協漁丸(17トン)、第20協漁丸(13.02トン)

支援期間：平成25年4月23日～平成28年4月22日

(定置漁業)

(取組の内容)

- 操業体制の見直し：二船団11隻体制を、一船団6隻体制に統合・縮減することによる生産コストの削減
- 省コスト化：隻数削減(11隻→6隻)により燃油消費量削減(23kl/年)
乗組員数を10名削減(35名→25名)
- 省力化：改革型漁船を導入し、漁労機器の増設等による労働環境の改善
- 漁獲物の付加価値向上：魚槽水温管理による漁獲物の鮮度保持
- 販路拡大：直販による販路拡大



改革型漁船導入



一船団の番屋

(事業の成果)

- 一船団化により、操業経費(3年平均)は震災前より20%減少した(233,293千円→186,502千円)。
- 漁船隻数の削減および改革型漁船の導入により燃油消費量(3ヶ年平均)は、震災前に比べ29%削減された(224kl/年→158kl/年)。
- 性能が向上した漁労機器等の導入により、3ヶ統二船団11隻(計35名)体制から3ヶ統一船団6隻(計25名)体制での操業が可能となった。
- 魚槽内の水温記録に基づき細やかな水温管理を実施し、漁獲物の鮮度保持を図る努力が買受人に評価されている。
- 山田魚市場での魚介類販売では集客力が増加し、直販体制が構築された。